

2011年7月1日
株式会社ケーイーシー

小学校6年生が自然エネルギーをテーマにディベート(討論) 時事問題で思考力、判断力、表現力を高め、生きる力を身に付ける。

～地域社会に根差す学習塾として「新学習指導要領」の理念である“生きる力の育成”にアプローチ～

奈良県で小中高生対象の学習塾「KEC ゼミナール」「個別指導P S」を展開する株式会社ケーイーシー（本社：奈良県生駒市 代表取締役：小椋俊男）は、福島原発事故を契機に世界中で新エネルギーへの関心が高まるなか、学園駅前教室（奈良市学園北）で小学校6年生を対象に、自然エネルギーの是非や省エネ対策を考えるディベート（討論）の授業を7月8日に実施します。これは「表現国語」の授業の一環とし、地域社会に根差す学習支援施設として、今年4月から全面実施された「新学習指導要領」の理念である“生きる力の育成”を目指すものです。

「ゆとり」でも「詰め込み」でもない新学習指導要領の理念「生きる力の育成」は基礎的・基本的な知識や技能と、思考力・判断力・表現力とをバランス良く育てていくことが求められています。

文部科学省は、この取り組みにあたって学校だけではなく、家庭・地域の連携・協力が不可欠だとしており、地域社会に根差す学習支援施設である当社にも社会的責任があると私たちは考えています。



■特定の講師が担当するディベートの授業

KEC ゼミナールでは2003年から奈良県下の学習塾でいち早く「表現」の授業を導入しており、感想を記す新聞スクラップやディベートなど生徒が自ら考え、表現力を伸ばす授業を行ってきました。異なる意見を許容したり、意見を引き出したりしなければいけないディベートの授業は指導も難しく、講師の資質が問われます。そのため生徒の可能性を引き出すことができる、ファシリテータースキルの高い特定の講師がディベートの授業を受け持っています。

■社会全体で包括的に子どもたちの生きる力を育む

7月8日のテーマは「自然エネルギーに賛成？反対？」と「15%節電こうする宣言」の2部構成。討論では賛成、反対のグループに分かれ、そのメリットやデメリットなどの意見を出し合った後、グループの意見を発表します。賛成、反対のどちらの立場に立つかは当日までわかりませんが、ディベートに慣れた塾生たちによる活気に満ち溢れた、積極的な発言や議論の展開が予想されます。

近年、中学入試の傾向としても記述や面接など「物事を考え分析し表現する力」を重視する傾向にあります。こうして小中学校だけではなく受験システムや学習塾など、子どもたちを取り巻く社会全体で、生きる力を育む包括的な教育体制を築いていくことが重要だと考えています。

実施授業概要

- 日 時：7月8日（金）17：55～18：45
- 会 場：KEC ゼミナール学園駅前教室 ※当日の取材も可能です
〒631-0036 奈良市学園北 1-11-4 エルアベニュー学園前 5F
- 対 象：小学校6年生 生徒数 20名

本件に関するメディアからのお問い合わせ先

株式会社ケーイーシー 広報担当 石崎 千里 ホームページ：<http://www.kec.gr.jp/>
〒630-0255 奈良県生駒市山崎新町 2-37 エミネンス生駒 1F
TEL：0743-73-3323 FAX：0743-73-3423 e-mail：ishizaki@cec.gr.jp

参考資料

■KEC ゼミナールが取り組む「表現力重視の教育」

当社では 2003 年から県内学習塾としていち早く、算数や国語と同じ扱いで「表現」の授業を導入。討論し、表現することを楽しみながら鍛えるディベート形式や表現力ノートを取り入れ、生徒の個性やセンスを尊重し、個性を伸ばす教育に力を入れています。

■表現教育に関する補足

・学習指導要領が「脱ゆとり」へと大きくかじを切った 2010 年春からの小学校の教科書には「自分の言葉で考えを説明しよう」「ノートにまとめて発表しよう」など、言葉で表現する力をつけるためのカリキュラムが、あらゆる教科で盛り込まれています。

・文部科学省が今年 2 月 24 日に発表した、平成 19～21 年度の全国学力・学習状況調査における、正答率が高いなどの特徴ある結果を示した学校の取り組み実例によると、小学校では「自分の考えを形成し、表現する力を高める取組」や「説明する力を伸ばす少人数指導」が紹介されています。<http://www.nier.go.jp/09zireishuu/index.htm>

■KEC の表現授業概要

・記述対策と発表

グラフや地図から読み取る練習、歴史でよく聞かれる道具や建物などの説明、身の回りの環境や自分を取り巻く生活についての意見作文の練習をします。これを授業中に発表することで、自分の意見を伝える力、つまり面接対策をも意識した表現力を鍛えていきます。発表は他の生徒の考えを知る機会になり、自分の言葉の引き出しを増やすことにも繋がります。

・ディベート形式、ゲーム形式の採用

ディベート形式では、討論し、表現することを楽しみながら新たな発見を見出します。また、ひとつの言葉に限定するのではなく、色々な表現の仕方を考えてもらうために、ゲーム形式の授業も展開しています。

・表現力ノート、スクラップブック

自分が読んだ本の気に入ったフレーズや言葉、日常生活では思いつかない言葉を記入する目的で採用しているのが、表現力ノートです。スクラップブックは新聞記事を切り抜いてその感想を書いていきます。毎月 5～15 以上挑戦し、時事的な問題にも対応できる力を養っています。

・その他

毎年クリスマス会で、トーナメント形式のディベート大会をチーム戦で実施しています。過去のテーマ例は「サンタクロースは存在するか」「男性がスカートをはくことに対して賛成反対？」「えんぴつとシャーペンどちらが良いか」などです。

■株式会社ケーイーシー概要

社名	株式会社ケーイーシー
代表者	代表取締役 小椋俊男
企業理念	人間大事の教育
従業員数	400 人（非常勤職員含む）
塾創設	昭和 52 年 11 月